

総合科学科 1 年生にはどんな学生がいるの？

# 総合科学科生

# first year

Department of Integrated Arts & Sciences

## あっち 永山葵

私は地域との結びつきが強い中高一貫校に通っていました。そこでコミュニティバスについての課題研究をしましたが、その中で中心となる地域学だけではなくそれに付随する経済学や心理学などの様々な分野を勉強することが必要だと感じて、あえて総科にきました。そして、広島大学に通う中で、新しく来たこの土地が第3の故郷となるようにこの地域の人との出会い・繋がり・思い出を作るためにも、『東広島を学生にとってまた帰ってきたい街にする』をモットーにウェブメディアでの発信やイベント運営などを行う maho.labo という広大の学生団体に所属しました。



## 西条を第三の故郷に

## そるてい 塩治玲奈

私は将来、生きるように語り、語るように生きることのできる人になりたいと思っています。私の恩師が、「一人も見捨てない」という理想をずっと語り続けてくださいました。だから私は、ベトナムに関する事で「一人も見捨てない」というのを形にするためのプロジェクトを進めています。途上国支援をする中で、相手は私たちにはない良いところを持っているため、私たちはそれを生かして自分たちをより良くしていくことができるということを感じてもらいたいと思っています。最後まで諦めないという私の長所を活かして、自分の尊敬する人に近づいていくため、毎日自分の理想だけは見失わずに生きていきたいと思っています。



## 自分の夢に向けて

## かな 関口佳那

私は高校生の時から、発展途上国の教育のあり方を変化させる必要があると考えていて、そのことについて様々な角度から考えることができると思ったのが総科を選んだきっかけです。また文理の垣根なく、色んな人と触れ合って刺激を受けたかったというのもその理由の一つです。今は現代社会システム授業科目群に進もうと考えていますが、自分の興味のあることに限らず身近なことから見つめていきながら、国際的な問題について気づける人になりたいと思っています。そして、たくさんの人と触れ合い、感化されながら、自分の中で深めたいものを考えつつ、素敵な部分を吸収していきたいです。そして、自分からどんどん行動していきたいです！



## 色んな人と触れ合いいたい



## ひかりん 江口ひかる

私は、mahoLabo.、ふくふく、フェニックス放送の三つのサークルに所属しています。高校時代に卒業研究で、地元の活性化について研究したことがきっかけとなり、まちづくりをする活動に興味を持ちました。最近はこの活動に加えて、昔から好きだった絵を生かして、4コママンガやLINEスタンプを作っています。勉強との両立は大変ですが、どの活動も楽しいし、やりたいことは全部やりたいので、これからも色々なことをして、色々な人と関わってみたいです。

# 総科1アクティブ

## セコム 滝石一太

僕は、自分がやってみたくと思ったことは、とりあえず一回は挑戦したいと思っています。その内の1つが留学で、夏休みにはアメリカに短期留学しました。そこでは、学びに対する姿勢の違いを目の当たりにし、また自分の固定観念を崩されるようなこともありました。その時に、今見ているものだけがすべてじゃないと思い、実際に目で見て体験することの大切さを実感しました。挑戦したことは、どんな結果であれ、すべてがいい経験になると思っています。だから、これからも興味のあることにはチャレンジしていきたいです。



# 挑戦を楽しむ

## はまかつ 田爪克哉

私は哲学に興味があるため、人間探究領域人間文化に進もうと考えています。特に、プラトンやアリストテレスなどの古代ギリシャ哲学や人間の形成する文学などに興味があります。また、海外の文化に肌で触れる為、留学もしようと考えています。より原始的な文化に触るために、東南アジアに行ってみたいです。



# 哲学少年

# 次はIGS!

Who are the first year IGS students?

# Integrated Global Studies

# first year

国際共創学科



**Karin** Karin Yamamoto

Since long ago, I have used to go abroad to study and travel. I want to look for a job that best utilizes my experiences, and that's why I chose the IGS. Currently, I am interested in tourism and the field of education. There is an enormous diversity about the IGS and here I can learn the importance of an open-mind. In the IGS, we get along so well with each other that we are like family. With friends and seniors, we sang together by the lake and that has become a precious memory of mine.

## The Open-minded Traveler



**Shaun** Shaun Sutoh

After spending 18 years in the UK, I didn't really know what to do next. But I did want to study in Japan. And then I found IGS. Lessons were conducted all in English, which allowed me to study in Japan while maintaining my English skills. A wide variety of subjects are available for IGS students to take. I am planning to study in the Culture and Tourism field. Airlines are the ultimate method of transport and are necessary in the increasingly globalizing and interconnecting tourism industry. I believe by studying tourism it will help me to achieve my goal of working for an airline company in the future. As of right now I am still in IGS, enjoying university life. I am glad that I found HU and would like to say thank you to the professors and IGS members who are making university life extremely enjoyable. I have no regrets.

## The Aviator Geographer

**Cho** Cho Meien

As a Chinese raised in Japan for 10 years, I have more or less sensed that people of either country had a deep aversion to the other, for which I started to take the mastery of peaceful communication as a vital task of mine. That's why I am going to study in the field of Peace and Communication. One appealing advantage of IGS is it is a full-degree program taught in English. As I have experienced both Japanese and Chinese culture in my upbringing, a proper program in English learning would be a great challenge and opportunity for me. Also, the global environment the IGS provides me with is a precious yet enjoyable opportunity of international cultural exchange and communication. In all, IGS has been a perfect choice for me, not only to both improve my professional knowledge and skills, but also to add a diversified life experience.



## The Eastern Wanderer



## **Kanon** Kanon Onishi

For me, the IGS has several appealing points. It sets the study program as a must, as it provides lessons conducted in English, and it's rich in its global atmosphere. Here, I want to study how to eliminate wars and conflicts, and what's required for us to do so as individuals or as a community. Therefore, I want to study in the field of Peace and Communication. Something about me: currently, I am working hard on studying the French language and cooking. I'm also a member of a club called astronomy club. We look forward to your arrival at our planetarium! The IGS is amazing! I'm so glad to be here.

# The Peace Astronomer

## **Yuka** Yuka Obata

The IGS offers me an opportunity to learn about global matters without the borders of subjects, which is why I chose to study in this department. I want to study in the field of Environment and Society, out of my interest in the conservation of coral reefs and mangrove forests, which are gravely affected by the water quality of the local environment. I am in the rhythmic dance club and I practice two to four times a week. From the lessons I have had every day, I would say that the IGS provides a unique learning experience that cannot be found anywhere else.



# The Eco Dancer

## **Rakko** Kosei Tahara

When I was in high school, I went to Brazil. It was then I witnessed some global issues such as environmental problems and homeless children, which made me start willing to solve these issues. The reasons I chose to study in the IGS was my will to solve the global issues, and the uniqueness of lessons taught in English. However, the biggest reason was that I could be admitted through STEM entrance examinations. To solve the global issues, IGS demands diverse perspectives. I want to study in the field of Environment and Society since I witnessed the actual seriousness of environmental pollution in Brazil. My hobbies are snowboarding and Karaoke. I am great at imitating the sound of crows.



## The Otterly Cheerful Environmentalist

# 次は先輩

総合科学科 2 年生にはどんな学生がいるの？

# 総合科学科生

# second year

Department of Integrated Arts & Sciences

## かじこ 梶川琴音

私は、戦争や迫害といった人が目を背けたくないような歴史をどのように後世に伝えていけばよいかを研究したいと思っています。きっかけは、広島の人たちが平和に対する意識が強いを感じ、平和とはそもそも何なのかを考えるようになったことです。ユダヤ人の迫害という暗い歴史があったドイツに留学をすることで、そこに住む人々がどのようにその歴史を乗り越え、向き合っているのかを学ぶことができました。今は、歴史や倫理学の観点から平和や戦争に関する授業を通して、歴史を伝えていける存在になりたいと考えています。後輩たちには様々なことに挑戦しながら、自分の興味を広げていってほしいと思います。



## 負の歴史を伝えられる存在に

## ふうちゃん 市村風花

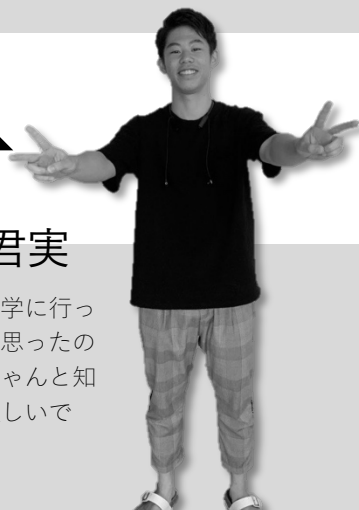
私は元々心理学が好きだったので、心理学1つだけでなく他の学問と絡めて勉強したり研究をしたりしたかったので総科に入りました。今は特に消費者心理に興味があり、将来も心理学の研究を続けていきたいと思っています。勉強以外では、飛翔の副編集長として今年から web マガジンの運営管理をさせていただいております。また、ハンドメイドが趣味なので自分の作品をネットで販売したり、『にじいろ商店』というハンドメイド団体に委託販売してもらったりしています。後輩には、総科は自由度が高いので、興味のあることを突き詰めながらも、色々なことに手を出して自分の興味を広げてもらえたらと思います。



## 総科1の頑張り屋さん

## キミ 山本君実

僕は大学に入ってから教育福祉や社会福祉について興味を持ちました。今は親からお金を出してもらって大学に行っているけれど、それができない人達について考えると、みんなが同じように勉強することができないのかなと思ったのがきっかけです。そのために法学とか経済など、他学部の授業も受けています。また、現場のことについてちゃんと知りたいと思い、老人ホームでアルバイトしたりしています。後輩達には純粋に自分のやりたいことをやって欲しいです。周りのことは気にせず、本気でやりたいことに取り組んで欲しいです。



# 夢に向かって



## あみぱん 石橋亜光

私は、ストレスの勉強がしたくてここに来ました。今は、人間行動の心理学を軸に学んでいます。それに加えて、教員免許をとるために教育学部で勉強をしています。学校外での活動としては、サイクリング部に入っているので、今年の夏、北海道に1か月の旅に行く予定です。1年前から行きたかったところなので、とても楽しみです。もう一つ、mahoraboという学生団体にも所属していて、ライターとして記事を書いています。大変なことも多いですがとても楽しかったので、今2本目を書いています。また、これからは教授の研究室を訪れたり、本をもっと読んだりなど、1年生のうちにできなかったことに挑戦していきたいと思います。

# いろんなことに挑戦する楽しさ

## Ryo Saito Paris 斎藤諒

僕は元々高校生の時には理系で、物理が得意だったけど自分には研究者は向かないと思い、言語や国際情勢を勉強していこうと感じて文転するために総合科学部にきました。今は社会探究領域の現代社会システムに進んで、国際関係のことなどについて勉強中です。そして、国際情勢を知るために新聞をとったり、あとは英語力をあげるためにTEDを観たり、自分の好きなポップミュージックを聴いたりする中から英語を学んでいます。将来は、自分自身がとても洋服を好きだし、自分が贈ったものを誰かが着てくれるのも好きだから古着屋を開こうと考えています。自分の好きなことを仕事にできることってとても素敵なんじゃないかって思います。



## ファッションナブルな総科生

## おがちゃん 白男川成羅

私はもともと文系ですが、今は数学の教員免許を取るために勉強しています。文系でも理系の教員免許が取れるのは、総科の特徴ですからね。勉強面以外では、スターリィパレットというゲームが、人生を潤してくれています。また、いくつかバイトをしていて、そこで色々な人と交流したり、見聞を深めたりしています。誰かと一緒に時間を過ごすときは、相手に笑っていて欲しいという気持ちがあるのが、私の明るさの源です。先輩にたくさんお世話になってきた分を、後輩に返していけるように、もっと色々な人と交流していきたいです。

# 総科のパワースポット

# 総科生 終わり 101

# 編集EDITORS' 後記COMMENTS

長野葵

編集長

私が編集長として作った2冊目の飛翔。こんなに嬉しいことはありません。しかも今年は沢山のわがまを叶えて頂きました。飛翔をもっと手軽に、もっとリアルに、もっとカラフルにしたい！と思い、飛翔 Web ページ・Twitter・Instagram を開設し、冊子を年一回発行にさせて頂きました。もちろん冊子にも手を抜きません！

今号で私たち幹部は引退ですが、この改革が良い結果をもたらすように、これからも飛翔をできる形で支えていけたらと思います。もう少しで飛翔は100号を迎えます。これからどんな飛翔が生まれるのか、とてもわくわくしています。

伊藤美波

副編集長・IGS 担当

今回は、裏方として、主に編集作業に関わりました。毎回新しい発見の連続で、今号の編集に際してもまた多くのことを学びました。私にとっては今号で飛翔の作成をお手伝いするのは最後ですが、今後も飛翔の発展を读者として楽しみにしています。ありがとうございました。

菱川慶人

先生へのインタビューから文字起こし、そして編集までの行程を行うことができ、とても良い経験となりました。最初はどうなる事かと思っていましたが、何とか仕事を終えることができほっとしています。また、インタビューを通して、自分の知らない分野に見聞を広げる事ができました。「飛翔」の仕事は自分にとって色々な意味でプラスになりました。ありがとうございました。

市村風花

副編集長

94.95 号に引き続き、3 回目の飛翔発行に関わらせて頂きました。

今年は1年で1回だけの発行ということもあり、今回の号は令和元年度の集大成！というイメージで出させておいていただき、こうして無事に発行出来たことを嬉しく思います。

インタビューなどに積極的に取り組み主体となって働いてくれた1年生にも、1年間ずっと共に飛翔を引っ張ってきた幹部の皆様、取材や編集にご協力頂いた方にも本当に感謝しております。また、本年度からは Web 版の開設・運営・管理という貴重な経験をさせて頂く事ができました。まだまだ拙いところも多々ございますが、今回の96号の記事も少しずつ載せてまいりますのでそちらもご覧いただければ幸いです。この度はありがとうございました。

Mikael Kai Nomura

レイアウト長

This year, we had the first ever layout team. Although there were a lot of difficulties with having a big team, we were able to successfully finish HISHO 96<sup>th</sup>. I am happy to be the part of HISHO 95<sup>th</sup> and 96<sup>th</sup>, and excited to see how HISHO grows in the future.

江口ひかる

アポ取りから記事の執筆までの一連の過程を通して一つのものを作れたという貴重な経験ができました。ここで経験させていただいたことを今後の自信や活動の糧にしていきたいと思っています。ありがとうございました！

## 北川波留

先生へアポを取って、インタビューして、文字起こしをして最後には編集するということは滅多に経験できないことだと感じます。飛翔の編集員になることで新たな経験を積むことができました。ありがとうございました。

## 長石拓

先生に取材し、それを文字起こしするという初めての経験をさせていただきました。普通に学生生活を送ったならば経験できない貴重な体験でした。このことは自分の将来にとってプラスになると思います。ありがとうございました。

## 上甲篤矢

幅広く活躍されている総科の先輩や先生方に直接会ってお話を伺うことで、その方の考え方をより深く知ることができたように思います。僕もインタビューの方々のように、自分なりの面白い考え方が持てるようになりたいと思いました。貴重な経験をありがとうございました！

## 犬田悠斗

教授のアポ取りから記事の作成までを実際に経験してみて、雑誌を作ることの大変さを実感しました。また、教授や先輩方から興味深い話を聞くことで、多くの刺激を得ることができました。飛翔で学んだことを今後の活動に活かせたらと思います。大変なことも多かったです、楽しかったです。ありがとうございました。

## 小丸唯香

冊子一つを作るのにかかる時間と労力、皆の助け合いを知ることができました。教授の部屋に入って話を聞き、自分の興味のあることを質問すると詳しく教えてくれて楽しかったです。総科には色んな経験をしてきた人、色んな想いを抱いて活動している人がたくさんいて、その人たちもあれこれ考え悩みながら積極的に動いて、そこから成長しているのだと感じました。自分も自信を持って何か人に伝えられる人になりたいと思える活動になりました。

## 渡邊夏未

飛翔に携わったことで、教授の滅多に聞けない貴重なお話が聞けたり、先輩や同期の意識の高さをとて感じたりすることができ、とても勉強になりました。これを機会に、今後の自分の生活や考え方を見直していきたいと思いました。また、自分がインタビューした人の記事を書くことで、最初から最後まで責任を持ってやることの大切さも学ばせていただきました。インタビューした方の想いや伝えたいことが、記事で間違っただけで伝わらないように要約したり言葉を言い換えたりする難しさもありましたが、とてもやりがいがあり、いい経験になりました。本当にありがとうございました！！

## 山重有羽香

総科の学生に改めて色んな話を聞いたり、先生方に取材したりと、普通ではあまり経験することの無いことができました。飛翔での活動を通して、より総科を知ることができ、たくさん刺激も受けました。飛翔の編集員をしてよかったと心から思います。拙い部分もあったと思いますが、手伝ってくださった先輩を含め、協力して下さったみなさん、本当にありがとうございました！

## 黒木渉

先生や先輩へのインタビューを行い、記事にするという貴重な経験をこの飛翔で体験させていただきました。想像していたよりも大変な作業も多くありましたが、やりがいを感じられ、楽しかったです。ありがとうございました。

## 滝石一太

最初は入るかどうかわざわしましたが、今は「飛翔」に入ったことは正解だったなと思っています。先輩や教授方への取材を通していろんな人の価値観やモノの見方に触れることもできましたし、メール作成やアポ取りのマナーなど社会人としての当たり前の礼儀も学ぶこともできました。飛翔の編集員としての期間だけでなく、今後の人生の財産とも言える貴重な経験を積ませてもらったことにとっても感謝しています。「飛翔」の活動を通して出会えた教授や先輩方、そして編集員の皆さんとの縁を今後も大事にしていこうと思います。本当にありがとうございました！



## 八木麻友子

飛翔の編集作業に携わることで英語でインタビューをし、それを文字起こしするという貴重な体験をさせて頂きました。インタビューだけでなくレイアウトの方にも携わることができて、今後この経験をどこかで生かせたらいいなと思います。あまり時間に余裕がなく大変でしたが、参加させて頂けて良かったです。ありがとうございました。

## 張明遠

大学に入り何かを始めたいとの意思で「飛翔」に参加させて頂きました。英語のインタビューの文字起こしに挑戦したり、周りの友達に取材するなど、雑誌の制作に各自の責任と努力が如何に重要であるか勉強になりました。この貴重な経験を今後の活動に活かし、より積極的に皆との作業に関れる自分になりたいと思います。ありがとうございました。

## 江畠睦

飛翔を手にとってくださった方、ありがとうございます。私は編集作業の一部で携わらせて頂きました。初めての経験だったので、先輩に教わったり、ご迷惑をおかけしたりすることも多かったです。このような機会を頂けて感謝で一杯です。

## 前畠智華子

インタビューをし、文字起こしをし、レイアウトを考え……ひとつの冊子を作るのにこんなに労力がかかるとは思っていませんでした。貴重な経験をする事ができ、とても良かったです。ありがとうございました！

## 内藤涼太

インタビューをしたり文字起こしをしたり編集をしたりと、あまり経験したことがない事ばかりでとても新鮮でした。そこまで貢献できたわけでは無いけれど、携われてよかったと思います。貴重な経験をありがとうございました。

## 仲村和歌乃

今回は、総科101と先生の紹介を担当させて頂きました。編集を通して、友達の夢や目標に自分が元気をもらいました。ありがとうございました。

# 飛翔

# 96号



## 薩摩真介

広報・出版委員会（飛翔担当）

今号の『飛翔』は、新型コロナウイルスの拡散で世界が揺れる中での刊行となりました。このような問題もグローバル化がもたらした副産物の一つといえます。

百年ほど前に猛威を振るった「スペインかぜ」の時代よりも世界の一体化がいつそう進んだ今日では、様々な問題もより複合的な性質のものになっています。その対応には、自然科学だけでなく、政治、経済、社会、文化についての深い理解や洞察力も必要です。総合科学の出番です。発想力と行動力に溢れる総科生が、新たな問題に取り組む、次代を担う存在として、世界に羽ばたいていくことを願っています。

## 渡邊英伸

広報・出版委員会（飛翔担当）

『飛翔』の完成度の高さには感心しました。教員紹介、輝いている人、OB・OG 紹介など、各記事において、その人の個性や取り組みの魅力を引き出した記事になっており、担当した皆さんの努力が伝わってきます。

特にストリートチルドレンに興味をもった学生の紹介は、同年代の学生にとって良い記事になったのではないのでしょうか。

総合科学部は「文理融合」の学びの場として多種多様な側面がある中で、引き続き『飛翔』が読者にとって良い学びの場に出会う架け橋になることを願っています。

## 佐々木和人

学生支援室（飛翔担当）

『飛翔』の作成に関わった学生は、授業の合間を縫って時間をつくり、取材、編集、打合せを重ねて作成しております。苦労も多かったでしょう。こうして出来上がった1冊をそれぞれの思いで感じてもらいたいと思います。もっと知識や技術を身に付けておけば…。もっと工夫を加えられれば…。それぞれの思いは、次の自身の行動に活かしてもらいたいと思います。

取材を通じての出会いやそこで体験したこと、作成に至るプロセスに関わったことは一つの財産として個々に身につけているはずです。そして、その経験やノウハウを次の世代に引き継ぐことによって、これまでの代々の先輩方が力を注ぎ、受け継がれてきた飛翔は、今後も形を変えながら発展を遂げていくのではないかと期待しております。



# ありがとう

この度は飛翔 96 号をお読み頂き誠にありがとうございました。

本年度からは年 1 回の刊行に変わり、1 年生約 30 名と 2 年生の飛翔幹部 4 人で 1 年間をかけてインタビュー、編集、レイアウト等を行ってまいりました。総合科学部の総合科学部生による広報誌、楽しんでご覧いただければ幸いです。また、新たな試みとして 6 月より飛翔公式ウェブマガジンを開設し、総科でのイベントや先生インタビューなどの記事を随時投稿しておりますので、併せてご覧下さい。より一層多くの人に総科の魅力について伝えて行けたらと思っております。

最後に、取材にご協力して下さった皆様、総合科学研究科支援室の皆様、そして最後まで読んで下さった皆様に謹んで御礼申し上げます。

今後も更なる飛躍を目指してまいりますので応援よろしくお願い致します。

**飛翔幹部一同**

IAS  
飛翔

~HISHO~

広島大学総合科学部公式広報誌

IGS

# WEB MAGAZINE START!

<http://hisho.hiroshima-u.ac.jp/wordpress/>

E-mail: [admin@hisho.hiroshima\\_u.ac.jp](mailto:admin@hisho.hiroshima_u.ac.jp)

総合科学部 飛翔



総合科学部報『飛翔』

令和元年度3月発行 通巻96号

広島大学 総合科学研究科・総合科学部

広報・出版委員会

〒739-8521 東広島市鏡山 1-7-1

TEL 082-424-6319